

2020年11月5日

ご参考資料

MLP  
Monthly

MLP マンスリー

2020年10月の

## MLPの動きをザックリご紹介

nikko am  
fund academy

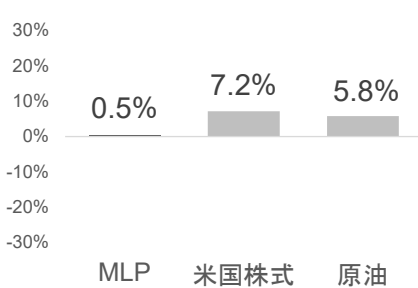
## ■当月のS&amp;P MLP 指数の動き

10月のS&P MLP 指数(米ドルベース/トータルリターン)は、前月末比+3.8%と2か月ぶりの上昇となりました。

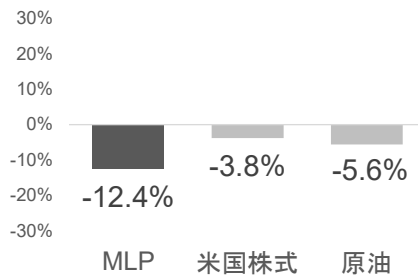
中国の景気改善期待や米国での追加景気支援策を巡る協議の進展期待などから、中旬にかけて米国株式市場が上昇し、MLPの価格も上昇基調となりました。しかしながら、その後は、欧州における新型コロナウイルスの感染再拡大を受けて行動制限を再導入する動きが広がったことや、米国の追加景気支援策の協議の難航が伝わったことなどを背景に米国株式市場が下落したこと、そして、需要減少懸念などを背景に原油価格が下落したことなどをを受けて、MLPの価格は下落基調となりました。

## ■過去3カ月の主要指標の月次騰落率(米ドルベース、トータルリターン)

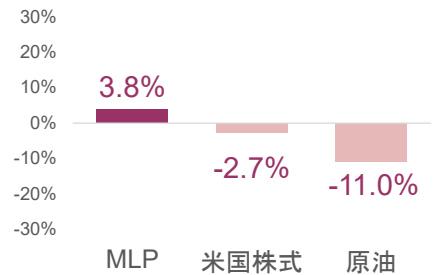
2020年8月



2020年9月



2020年10月



## ■主要指標の動き

MLP: S&amp;P MLP 指数、米国株式: S&amp;P 500 種指数、原油: WTI

休場の場合は、直前の営業日のデータを使用	指数値	指数値	指数値	指数値	騰落率		
	当月末	前月末	3か月前月末	前年末	前月末比	3か月前月末比	前年末比
	2020/10/31	2020/9/30	2020/7/31	2019/12/31			
<b>S&amp;P MLP 指数(米ドルベース)</b>							
トータルリターン	2,543.55	2,449.62	2,780.97	4,443.25	3.8%	-8.5%	-42.8%
プライスリターン	667.82	652.03	753.04	1,283.04	2.4%	-11.3%	-48.0%
<b>S&amp;P 500種 指数(米ドルベース)</b>							
トータルリターン	6,734.84	6,918.83	6,709.81	6,553.57	-2.7%	0.4%	2.8%
プライスリターン	3,269.96	3,363.00	3,271.12	3,230.78	-2.8%	-0.0%	1.2%
<b>S&amp;P 500種 エネルギー株指数(米ドルベース)</b>							
トータルリターン	420.05	439.45	519.36	846.58	-4.4%	-19.1%	-50.4%
プライスリターン	216.82	227.49	272.09	456.46	-4.7%	-20.3%	-52.5%
<b>S&amp;P 米国 REIT 指数(米ドルベース)</b>							
トータルリターン	1,196.98	1,228.52	1,259.82	1,481.35	-2.6%	-5.0%	-19.2%
プライスリターン	270.13	277.73	287.08	345.21	-2.7%	-5.9%	-21.7%
<b>米国ハイイールド債(ICE BofAアメリカンハイイールド・インデックス(米ドルベース))</b>							
トータルリターン	1,413.79	1,407.21	1,408.17	1,411.39	0.5%	0.4%	0.2%
プライスリターン	73.43	73.44	74.22	77.11	-0.0%	-1.1%	-4.8%
<b>米国10年国債利回り</b>							
	0.87%	0.68%	0.52%	1.91%	0.19	0.35	-1.04
<b>原油(WTI) 米ドル/1バレル当たり</b>							
	35.79	40.22	40.27	61.06	-11.0%	-11.1%	-41.4%
<b>天然ガス先物 米ドル/百万btu当たり</b>							
	3.35	2.53	1.80	2.19	32.7%	86.4%	53.2%
<b>米ドル(対円)</b>							
	104.66	105.48	105.83	108.61	-0.8%	-1.1%	-3.6%

※ 「米国10年国債利回り」の騰落率は、変化率(%)ではなく、利回りの変化幅を示しています。

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。■指数に関する著作権・知的財産権その他一切の権利は、当該指数の算出元または公表元に帰属します。

## ■ 当月の出来事いろいろ

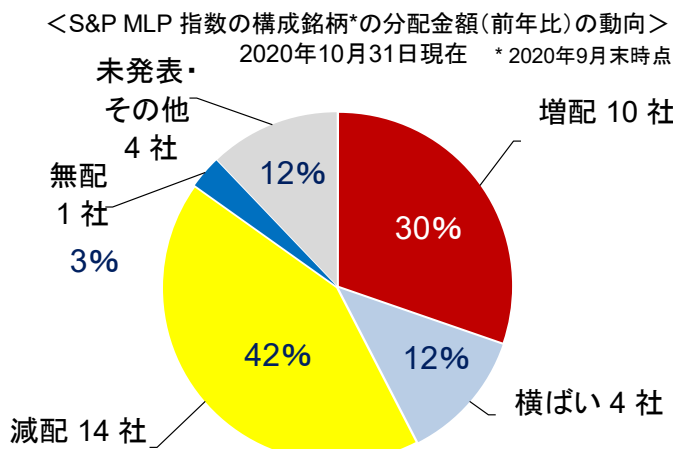
- ・ 米国株式市場は、中旬にかけて、中国における主要経済指標の改善や米国での追加景気支援策を巡る協議の進展期待などを背景に、上昇基調となった。米主要株価3指数は、9月初旬に付けた高値に迫る水準まで上昇する場面もみられた。しかしながら、下旬にかけては、新型コロナウイルスの臨床試験の中断が相次いだこと、欧州で新型コロナウイルス感染者数の再拡大が顕著となる中、フランスの主要都市で夜間外出禁止令が発動された後、同国全土でロックダウン（都市封鎖）を再導入すると発表されたこと、そして米国における追加景気支援策を巡る協議の難航が伝えられたことなどを背景に、米国株式市場は下落基調となった。
- ・ WTI原油先物価格は、上旬は、米国株式市場の上昇に伴う投資家のリスク選好の動きや、メキシコ湾岸へのハリケーンの接近を受けた生産停止の可能性が材料視され、8日に1バレル＝41米ドル台まで上昇した。中旬から下旬にかけては、40米ドル前後での推移が続いたものの、月末には、欧米における新型コロナウイルス感染再拡大に伴う、需要減少への警戒感などから、原油価格は下落した。

## ■ 今後の注目点

- ・ 欧州で新型コロナウイルスの感染が再拡大する中、再びロックダウン（都市封鎖）を行なう国が増えたり、ロックダウンの期間が長引くようであれば、需要減少への懸念などから、原油価格が押し下げられる可能性が考えられる。
- ・ 11月30日・12月1日にOPECプラス会議が開催される。足元の需要見通しなどを踏まえ、21年1月に協調減産の規模を縮小する方針を見直すかどうか注目される。

## ■ MLPの分配金動向

MLP各社は決算発表に先立ち、その期の分配金を発表するのが一般的です。10月から公表が始まっているMLPの2020年7-9月期の分配金動向は、2020年10月31日現在で、指数構成銘柄(33銘柄、2020年9月末時点)のうち、**29社の発表が終了しており、前年比での増配は10社、横ばいが4社、減配が14社、無配が1社**となっています。



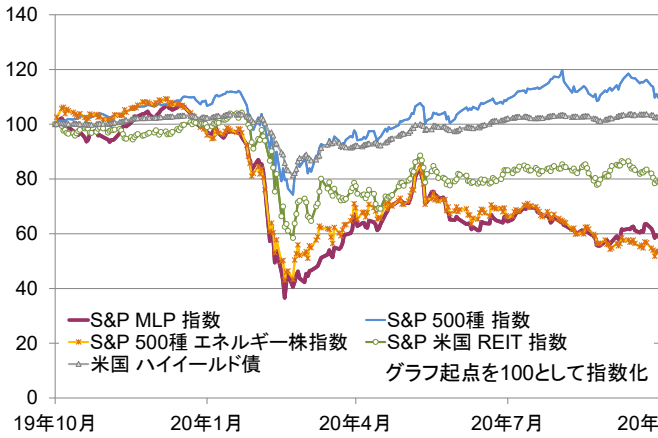
信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。

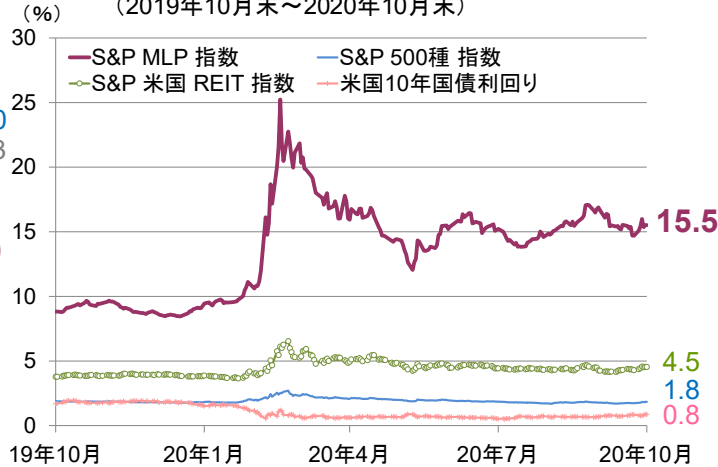
日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論書)をご覧ください。■指数に関する著作権・知的財産権その他一切の権利は、当該指数の算出元または公表元に帰属します。

## ■過去1年の指数の推移 (米ドルベース/トータルリターン) (2019年10月末～2020年10月末)



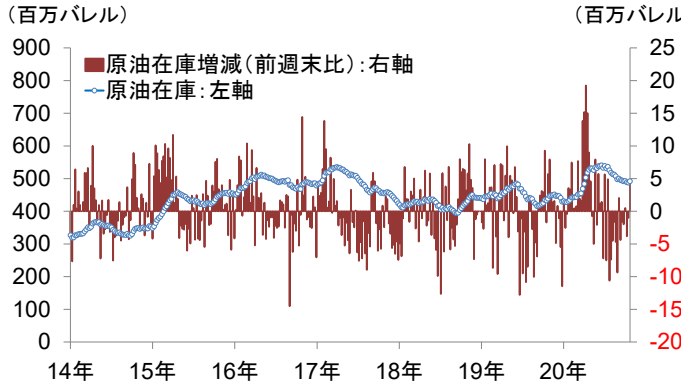
## ■過去1年の各資産の利回り (2019年10月末～2020年10月末)



※ 各資産のリスク特性はそれぞれ異なるため、利回りだけで比較できるものではありません。  
 ※ 各指数に関する著作権・知的財産権その他一切の権利は、当該指数の算出元または公表元に帰属します。

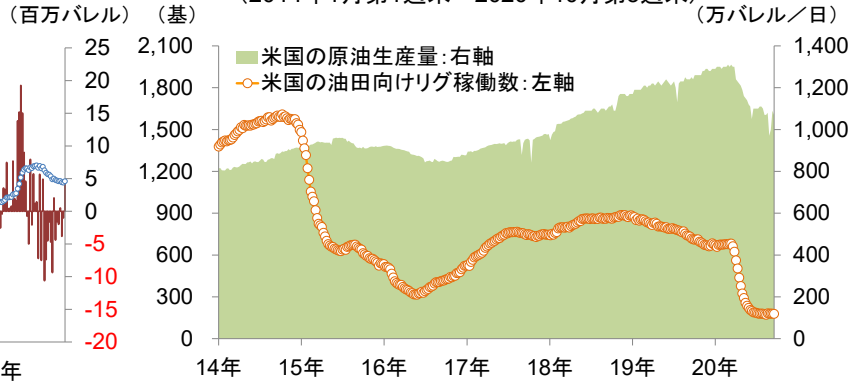
## ■米国の原油在庫

(2014年1月第1週末～2020年10月第3週末)



## ■米国の原油生産量と油田向けリグ稼働数

(2014年1月第1週末～2020年10月第3週末)



原油価格は、原油需給の影響を大きく受けます。一般的に、原油在庫が増えれば(減れば)、需給悪化懸念(改善期待)から、原油価格は下落(上昇)する傾向がみられます。また、油田向けのリグ稼働数が増え(減り)、原油生産量が増える(減る)と、需給悪化懸念(改善期待)などから、原油価格は下落(上昇)する傾向がみられます。

## ■原油価格と米ドル指数\*

(2014年1月初～2020年10月30日)



\* 米ドル指数は主要通貨に対する米ドルの水準や動きを示す指数です。

原油は、米ドル建てで取引されることから、米ドル相場の影響を受ける傾向がみられます。米ドル高基調が強まる場合、割高感などにより、原油価格に押し下げ圧力が働く可能性が考えられることから、米ドル相場の動向には注視が必要です。

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。